

県立新発田病院だより

第59号 2017年7月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町1-2-8
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874
<http://www.sbthp.jp/>

【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行ない、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

目次

- P 1. 巻頭言：救急車受入6,000人超えて
P 2. 病院トピックス：ロボットと看護師の「手」
P 3. 患者様に育てていただいて、ミニクイズ
P 4. 患者さんの声、患者さんの権利、編集後記

救急車受入6,000人超えて

院長 塚田 芳久



新潟県内の救命救急センターは県内6か所です。救命センターは三次医療を担当するため、救急車搬送受入は多くなります。県医務薬事課・消防課の調べでは、平成28年度に当院に搬送された方は6,137人です。新潟市民病院の6,466人に及ばないものの、長岡赤十字病院の4,422人や県立中央病院4,014人、新潟大学3,026人、魚沼基幹病院2,248人と比べると救命センターの中でもトップクラスです。

下越医療圏（3市1町2村）全体の搬送数8,246人の半分以上と新潟医療圏（阿賀野687人、新潟302人、阿賀41人他）から1,000人以上が当院へ搬送されていました。二次輪番病院の収容能力の衰えの影響は、新潟市民病院の医療制限で加速し、救急搬送需要はさらに増える気配を見せています。病院の診療時間は約8時間ずつ40時間／週にしかすぎません。一方、診療時間外は3倍の128時間／週もあります。不安を感じれば、救急車以外の直接来院（例年約1万人）も避けられません。

入院数に対応するため、新病院開院時17日の在院日数（1回あたりの平均入院日数）を10年間で5日間以上短縮して受け入れ態勢を作りま

した。緊急手術の多さに対応する有効策はなく常時渋滞状態です。引き続き救急受入が集中するならば、治療前転院など新たな打開策を考えなければいけません。

救急医療はひたすら受け入れる毎日ですが、働き方改革が叫ばれる昨今、医師の勤務時間に配慮が必要となりました。平均入院日数は2週間足らずと短く、医師は休日も診療したいところですが、労働基準法は日曜日の出勤を2回に制限しています。月に4～5回ある日曜日の診療を行うには、複数主治医の交代診察が必要かもしれません。時間外の主治医呼び出しや専門医呼び出しについても、法令遵守を優先すれば制限が必要になります。

病気はいつ発生し、どのような展開になるか予測不能なところがあります。医師が患者さんの不安に応えるには、労働基準法に馴染まないと考え、長時間病院にいる医師生活を送ってきました。時代の流れによる主治医患者関係の変換期かもしれませんが、医療者が持つ「患者ファースト」の考え方は時代を超えて変わらないと信じています。皆様のご理解、ご協力を切に願います。



ロボットと看護師の「手」

看護部長 池田 浩美



自宅の窓から見えるスキー場のゲレンデがいつの間にか土色に変わり、爽やかな新緑のかがりが心地良く感じられる4月に新発田病院へ着任しました。私は、新築移転前の旧新発田病院に新卒で採用されてから約20年間お世話になりました。その後いくつかの病院を経験し、また新発田病院に異動が決まった時は、驚きと不思議な縁を感じました。

5月に入り、着任の挨拶の為、近隣の病院をいくつか訪問させて頂いた際、ある病院で交通事故により下半身麻痺になった患者さんがロボットスーツを装着して歩行訓練をしているところを見学することができました。これは、装着した人の脳から「歩きたい」という意思を感知して足を動かし「歩けた」という感覚のフィードバックを繰り返すことで脳の学習を促す歩行介助ロボット（HAL）と伺いました。同時に昨年末頃、政府が開催した「未来投資会議」の場で、安倍首相が「人工知能（AI）を活用し、質の高い医療を実現していく」と宣言。厚労省も診療報酬改定によりAIを用いた診療支援にインセンティブを着ける方針を表明したというニュースを耳にしたばかりでした。

既に、このような身近なところまでAIの技術が広がってきているということに改めてAI技術のスピードの速さを実感しました。これからますます研究、技術開発が促進され、近い将来、病院の中で病院職員と医療ロボットが普通に業務する光景が当たり前のことになるのでしょうか。

仮に看護ロボットと呼ばれるものが臨床現場に導入された時を想像した時、患者さんはロボットの「手」より看護師の「手」の方を求めてもらえるのだろうか、心と不安になりました。ロボットの手は、様々な化学薬品やAIの技術を駆使して精巧な人間の指関節の動きや温度、感触をつくることはできるかもしれません。

しかし、看護師の「手」は、ただ触れるという動作以上の何か思いの交流があるような気がします。

意識のない状態でICUに入院中の患者さんが、看護師が心を込めて触れた手から共感や励ましのメッセージを受け取っていることを、心拍数や血圧から実証した研究もあるといます。かなり前になりますが、病棟看護師だった頃、鎮痛剤があまり効かず、次の痛み止めを使える時間まで我慢するしかない末期がん患者さんに対して、どうしてよいかわからず、ただ患部に手を当てたり擦ったり、弱めにマッサージをしていると自然に苦痛の表情が和らぎ、ウトウトし始めたという経験も記憶に残っています。

現在、患者さんの脈拍は器械を使えば正確な数値を知ることができですが、やはり、3本の指で脈をとりながら数値以外の情報（強弱や間隔、熱感、湿潤等）を統合してアセスメントできる看護師であってほしいと思っています。

在院日数が短縮され、日々目まぐるしく患者さんの状況が変化する看護の現場であっても、看護師は患者さんの思いに寄り添い、手を当てる。そして最終的に患者さんからは看護師の「手」を選んでいただけると信じています。



「患者様に育てていただいて」

附属看護専門学校 教頭 白田 容子



平成29年4月から、附属看護専門学校の教頭になりました、白田と申します。当校学生の実習では、患者様はじめご家族、地域・病院職員の皆様方に大変お世話になっております。

本校は、昭和32年に「新潟県立三条高等看護学院」として、准看護婦から看護婦（当時の呼称）への進学課程として発足し、昭和35年に県立新発田病院へ移転しました。昭和51年からは3年課程（高卒後入学し看護師になる課程）の教育を行っております。平成18年には新発田病院と共に新築移転し、1学年定員40名の看護教育を行っております。今年、創立60周年を迎え、1,949人の卒業生が県内外の保健医療福祉施設で活躍しております。

看護師を目指す理由は様々ですが、私自身は祖母の「これからの女性は、看護婦の様に手に職をつけて自立しないとだめだ」という言葉がきっかけでした。

当時の看護学校のカリキュラムは、3年間で3,375時間（その内1,770時間以上が実習）学ぶことが定められていました（現行カリキュラムでは1,035時間）。実習では、患者様からたくさんの学びを頂きましたが、中でも回復が見込めない状況にあった患者様との出会いを忘れられません。病状への不安や苦痛な症状に苦しむ患者様、その患者様を支えるご家族の苦しみに直面し、学生である自分にできることがあるのかと悩んだことが幾度もありました。学んだ知識と技術を活用しても

なかなか答えは見つからず、何かしてさしあげたいという気持ちだけが空回りして、結論を出すことに焦っていたように思います。しかし、患者様のためにと悩んだことが、看護とは何かを問う自分自身の学びとなり、今の自分の支えになっていることを実感します。

看護を学ぶ者にとっては患者様が一番の教師であり、学びを与えてくださった患者様への思いは、ずっと変わらず看護する者の心に生き続けます。このように、実習は教科書では学ぶことのできない「看護」を実際に体験して学ぶ貴重な機会となっています。

その後私は病院勤務を経て看護教員となり、「人の役に立ちたい」という熱意を抱く学生を支援する立場となりました。医療の進歩や時代の変化で学習環境が変わっても、看護師を目指す人の学びの過程で揺り動かされる思いに変わりはありません。看護学生だったあの日の私と同じように、「患者様のために何ができるのか」と悩む学生の姿に成長を感じつつ、これからも学生と共に学びたいと思います。

今後とも、看護教育における実習へのご理解と、ご支援・ご協力を頂きますよう宜しくお願いいたします。



ミニクイズ

暑さで寝苦しい夜が増えてきますね。水分摂取が大切と言われる夏ですが、夏の暑い時期、睡眠中に体から失われる水分はどれくらいでしょう。



①50ml

②100ml

③500ml

回答は4ページにあります。



投書箱から

《患者さんの声1》

血液検査を毎回して報告書をいただきますが、検査項目を日本語にしてほしいです。

《回答1》

報告書の検査項目表記は文字数制限等の関係で、病院内で利用されている略称を用いています。採血室受付（27番）に、日本語表記と項目の解説を記載したリーフレット「検査結果報告書の見方」を用意してありますのでご利用ください。記載内容でご不明な点は受付にお問い合わせください。

《患者さんの声2》

エレベーターが3機ありますが、3機同時に動いているのを見たことがありません。土・日・祝は診察がないので、利用する人が少ないはずなのに、何分も待たされます。何とかありませんか？

《回答2》

ご指摘のありましたエレベーターについては、コンピューター制御で3機の位置を把握して、効率的な稼働をするよう設計されております。なお、土・日・祝日は節電のため、3機のうち1機の運転を休止しております。ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

《患者さんの声3》

今まで通院し続けて10年（？）位になるけど、はじめてナースさんの態度の親切さに感激しました。以前はこの患者さんはイヤーという態度の人もいて、治るものも治らない思いを受けたことがあったので。〇〇さん、よく見えなかったけど、内科のナースさんにはじめて、やさしさを覚えました。感せん症に御注意をして下さいますよう、お願い申し上げます。安心してかかれるよう、良い人材育成を。

《回答3》

温かいお言葉ありがとうございます。今後も患者さんに寄り添える看護が提供できるよう職員一同努力してまいります。

患者さんの権利

- 〇患者さんならびにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。そのうえで患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択する事ができます。
- 〇患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊ばれる権利があります。国籍、人種、信条、社会的身分、経済的狀態などによる差別を受ける事はありません。
- 〇患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さんならびにご家族は、自らの希望・意見を述べることができ、それを尊重される権利があります。

ミニクイズ ～回答と説明～

答え ③500ml

寝ているだけでもペットボトル1本分の水分が失われており、熱中症は日中だけでなく、夜間にも起こります。こまめな水分摂取を心がけるようにしましょう。

※アルコールは利尿作用があるため逆効果！飲み過ぎには注意しましょう。



編集後記

今年も厳しい夏がやってきました。冬との気温差は30℃以上もあり、日本の四季には毎年驚かされますが、その環境変化に順応できる人の体にも感動を覚えます。暑い夏を楽しめるよう、体調に気を付けて過ごしていきたいですね。

《編集委員》

渡部 和敏	清野 康夫	三井田 博
浅野 堅策	齋藤和歌子	高田 正樹
鏡 十代栄	星 雄大	堀 百合子
小山さくら	白井 篤	源川 恒一
岩川 智宏		